東京小諸会々報

（題字・初代会長　小山邦太郎先生）

第23号
発行　平成11年11月13日
編集・発行　東京小諸会
〒105-0001
東京都港区虎ノ門2丁目6番7号　和孝第10ビル
世界経済研究協会内　東京小諸会
電　話　(03)3501-1321（代表）
ＦＡＸ　(03)3501-1420

〈東京小諸会信条〉

本会は、東京都及びその周辺に在住する小諸市出身者とその関係者をもって組織し、会員相互の親睦を厚くし、その向上と郷土の発展並びに社会文化に貢献する。

東京小諸会平成十一年度総会・大懇親会を迎えて

東京小諸会会長　韮澤嘉雄

本日は、小諸市より小林俊弘市長、池田勝衛議長はじめ一月の選挙で当選された市議会議員のほとんど全員、小山盛夫商工会議所副会頭、内藤夏雄観光協会会長ほか有力な方々が多数、極度に御多忙の中を、遠路はるばるお越し下さり、まことに有難うございます。（香坂勝商工会議所会頭のご欠席はまことに残念でございますが、結婚式にご招待されておられるとのことですのでやむを得ません）

また、会員の皆様には、万障御繰合わせ御出席下さり、感謝に堪えません。

さらに、経済評論の大御所、三鬼陽之助先生、小山峰男・羽田雄一郎参議院議員、小林忠司長野県議会議員、我山惇長野県人会連合会常務理事、三上外喜男東京滑川会会長、高木一雄・石川隆同副会長、竹内芳郎東京上田会副会長、ほかには、本会のため特に貴重なお時間をおさき下さり、厚く御礼申し上げます。

さて、私どものふるさと小諸が、「高原に育む活力ある詩情公園都市」をテーマに、小林市長の卓越したご統率と温かいお人柄のもとに、幾多の困難を乗り越えて、着実に発展しつつありますことは、まことに心強い限りです。

小林市長の別項のご寄稿によりますと、この十月三十日、上信越自動車道が新潟県の上越市で北陸自動車道とつながりました。これは画期的なことでありまして、これにより太平洋と日本海が小諸の地を通る大動脈で結ばれ、経済・文化の交流が大きく促進されることになります。この動きを活用すれば小諸の発展に大きく役立つでありましょう。

また、小諸市の独自の動きとしては、大久保に日帰り温泉施設「あぐりの湯こもろ」が十月八日にオープンしましたが、これは多くの市民に喜ばれていることでしょう。一日あたり平均入場者は千人を超えているということです。さらに、昨秋、飯綱山の山頂にオープンしました「市立小諸高原美術館」は、この一年余の間に、入館者が三万二千人を超えているとのこと、ご同慶に堪えません。私もこの八月に訪れましたが、実に立派な美術館です。この美術館の隣りに、長野県動物愛護指導施設「ハローアニマル」が来年四月に開館になるとのことですが、これも大いに期待されます。

さらに、市当局は、中心市街地の活性化、福祉施設の推進、高度情報化・国際化への対応、工業の活性化、商業・農業の振興などにも一段と積極的に取り組んでおられますが、以上のような諸施策によって、ふるさと小諸がさらに大きく躍進することを心から願ってやみません。そのために東京小諸会としてご協力できることがありますれば、何なりといたしますので、どうぞお申し付け下さい。

ともあれ、ご来賓、会員の皆様、きょうは総会の議事と小林市長の小諸の近況についてのお話などのあとは、懐かしい小諸に思いを馳せつつ、ふるさとの日本酒とワインを飲み、昔と今と明日の小諸を語り合い、小諸についての歌を唱い、福引を引いて秋の一日を存分に楽しくお過ごし下さい。べつに特別の余興はございませんが、ご出席の皆様同士でお唱いになるなどされて、飛び切り楽しい会にしていただきたいと思います。

なお、今年も会場を、私の母校、一橋大学の同窓会館でありますこの如水会館にさせていただきましたが、ここは東京会館が委託経営しておりますので、お料理はとても美味しいです。どうぞたくさん召し上がって下さい。

今年も、小諸市、香坂建設、信濃培養土、シンコー土地、小諸グランドキャッスルホテル・ふじや、信州味噌、小諸そば、山謙酒造、常盤館・花おか、マンズワイン、高嶺商会、京橋堂・松葵庵、丁字庵、三鬼陽之助先生、本会の荻原冨久子副会長、小山田純一副会長、小山洋之介副会長、高橋昭平常務理事、小山陽太郎理事、大池あさの理

来年の東京小諸会は十一月十一日　日本プレスセンタービル十階ホールで

来年の東京小諸会総会・大懇親会は、十一月十一日(土)正午から東京都千代田区内幸町の日本プレスセンタービル十階ホール（日比谷公会堂前の国会通りの向い側です）で開催することに決定いたしました。今から予定表にお書き込み下さい。如水会館のスターホールは十一月の土曜日はすでに予約ずみのためです。しかし、今度のところも「アラスカ」の料理ですので、とても美味しいです。どうぞ多数御出席下さいますようお願い申し上げます。

十一月十三日

東京小諸会

総会・大懇親会次第

一．開　会
一．「信濃の国」斎唱
一．会長あいさつ
一．会員慶弔
一．物故者への黙禱
一．議　事
　(1) 会務報告
　(2) 会計報告
　(3) 会計監査報告
一．来賓紹介・祝辞
一．大懇親会
　(1) 鏡開き
　(2) 乾　杯
　(3) 開宴・歓談
一．閉会の辞

平成10年度決算報告書

自平成10年1月1日～平成10年12月31日　（単位　円）

収入の部

科目	金額
前年度繰越	354,780
年会費	106,000
総会費	630,000
広告代	380,000
御祝儀	545,000
雑収入	720
計	2,017,500

支出の部

科目	金額
総会関係支出	1,545,251
東京滑川会御祝	30,000
東京上田会御祝	10,000
慶弔費	47,565
諸経費	48,342
繰越金	336,342
計	2,017,500

以上の報告を監査しましたところ、いずれも正確であることを証明します。

平成11年10月　監事　土屋佳代子
〃　吉沢正人

事に特別のご協力をいただきました。記して厚く御礼申し上げます。とりわけ、小山陽太郎理事には大変貢献していただきました。同理事の小諸愛の深さに感謝、感激いたしております。

なお、今年も、この会報に、小諸と長野県に関する信濃毎日新聞、小諸新聞などの記事を転載することにいたしました。きょうご出席の皆様全員が、信毎と小諸新聞を定期購読しておられるとは限らないと思ったからです。これによって、会員の皆様が、ふるさとの動きを身近にお感じになっていただければ幸甚に存じます。

それから、信毎の記事の中に、藤村の『破戒』が、パリ在住の日本語教師、スザンヌ・ロッセさんによってフランス語に訳され、このほどフランスで出版されたというのがありますが、これは非常に嬉しいことです。そういえば、実は藤村の「小諸なる古城のほとり」は、藤村の存命中にアグノウエー氏というフランス人によって訳されていたのです。私は、この八月二十二日の藤村忌に列席いたしましたとき、小山盛夫様から、そのことをお教えいただき、そのフランス語訳が収録されています中央公論社刊、全集『日本の詩歌』全三十巻の第一巻「島崎藤村」を頂戴いたしました。そこで、早速、この小諸会々報にそのフランス語訳と、それについての藤村の言葉を掲載させていただきました。小山盛夫様に心から厚く御礼申し上げます。

どうぞこの会報は、お捨てにならないで、おうちにお帰りになられましてから、ゆっくりご熟読下さいますよう御願い申し上げます。

東京小諸会平成十一年度総会大懇親会にあたり

小諸市長　小林俊弘

本日ここに、東京小諸会平成十一年度総会並びに大懇親会が、ご来賓の皆様をはじめ大勢の会員の皆様のご出席により、盛会に開催されますことを心からお慶び申し上げます。

平素皆様におかれましては、郷里・小諸市に対し、一方ならぬ温かいご支援、ご協力をいただいておりますことに、この場をお借りし、衷心より厚く御礼申し上げます。

先輩の皆様の英知とご努力により育まれて参りました我が郷土小諸市は、恵まれた豊かな自然、浅間山、千曲川を有し、歴史と文化遺産を生かしたまちづくりを進めております。

さて、長野県を貫く上信越自動車道は、さる十月三十日に新潟県の上越市で北陸自動車道とつながりました。これにより太平洋と日本海が小諸の地を通る大動脈で結ばれ、これに伴う経済・文化交流、物流の促進に大きな期待を抱くとともに、さらなる小諸市の活性化に生かして参りたいと考えております。

二十一世紀に向けたまちづくり事業の中から、主なものの進捗状況を紹介させていただきたいと存じます。

かねてより、市民の皆様から強いご要望をいただいておりました日帰り温泉施設につきましては、農業振興施策とタイアップする中から大久保の中山地籍において建設を進め、「あぐりの湯こもろ」としてさる十月七日に竣工式を行い、翌八日にオープンいたしました。

おかげさまで多くの皆様からご好評をいただき、現在の一日あたりの平均入場者は千人余を数え、地場農産物の直売施設、地域食材供給施設（レストラン）ともども、盛況に運営されております。また、併せて整備いたしましたイチゴハウスは、十二月から収穫を予定しており、小諸市の新しい観光スポットとして大きな期待を寄せているところであります。

文化面では、昨年の秋に飯綱山の山頂にオープンいたしました「市立小諸高原美術館」は、開館以来一年余を経過し、入館者も三万二千人を超えております。この隣接地では長野県動物愛護指導施設「ハローアニマル」が、来年四月の開館を目指して工事が進められております。この飯綱山公園では、市の木「梅」の植栽も進め、来年の春には、梅花漂う市民公園として、桜の懐古園とともに大勢の皆様に来訪いただくことを念願しております。

中心市街地の活性化につきましては、引き続き国のまちづくり支援街路事業、街なみ環境整備事業等を進め、歴史的、文化的に貴重な遺産を保全しながら、駅周辺整備と併せ取り組んで参る所存であります。

このほか、来年の四月から始まる介護保険制度への対応、少子高齢化社会に向けた福祉施設の推進、日々進展する高度情報化・国際化時代への即応、企業誘致による工業の活性化と若者の定着の促進、商業・農業振興等々、行政課題は山積しておりますが、これを新しい時代であります二十一世紀を迎える小諸市発展の試金石としてとらえ、四万五千市民の英知を結集しながら一層邁進して参りたいと考えております。

以上、市政の現況の一端をご報告申し上げましたが、会員の皆様におかれましては、折を見て郷里・小諸市にご来駕いただき、諸事業や新しい施設などをご高覧賜りたくお願い申し上げる次第であります。

終りに、今後も小諸市のために倍旧のご指導、ご支援をお願い申し上げますとともに、皆様のさらなるご健勝と、東京小諸会の限りないご発展を心からご祈念申し上げ、ご挨拶とさせていただきます。

小林市長の推薦を決める
後援会の『役員支部長会』

小諸市の小林俊弘市長の後援会（佐々木治夫会長）は、一日開いた役員・支部長会で来年四月に予定されている市長選に、小林市長の推薦を決めた。これに対し、小林市長は、「残り任期に全力投球したい」とあいさつし、態度をはっきり表明しなかったが、後援会は二期目の出馬に向けて動きだした格好だ。

小林市長は、現在、一期目。前回は、元県議、元市会議長ら五人の激しい争いの末、初当選した。一期目は、塩川前市長からの引継事業を順調にこなす一方、市民の声を直接吸い上げる姿勢を強く打ち出すなど、無難にこなしてきた。

今のところ、自薦、他薦を含めて具体的な動きはほかには出ていない。小諸新聞 10月8日

信州味噌 小山正邦さん 勲四等瑞宝章

市荒町＝は秋の叙勲で食料品加工業振興功労で勲四等瑞宝章を受章した。

小山さんは東北大卒。元全国味噌工業協同組合連合会会長。

信州味噌会長の小山正邦さん（76）＝小諸市荒町＝は秋の叙勲で勲四等瑞宝章を受章した。

小諸新聞 11月3日

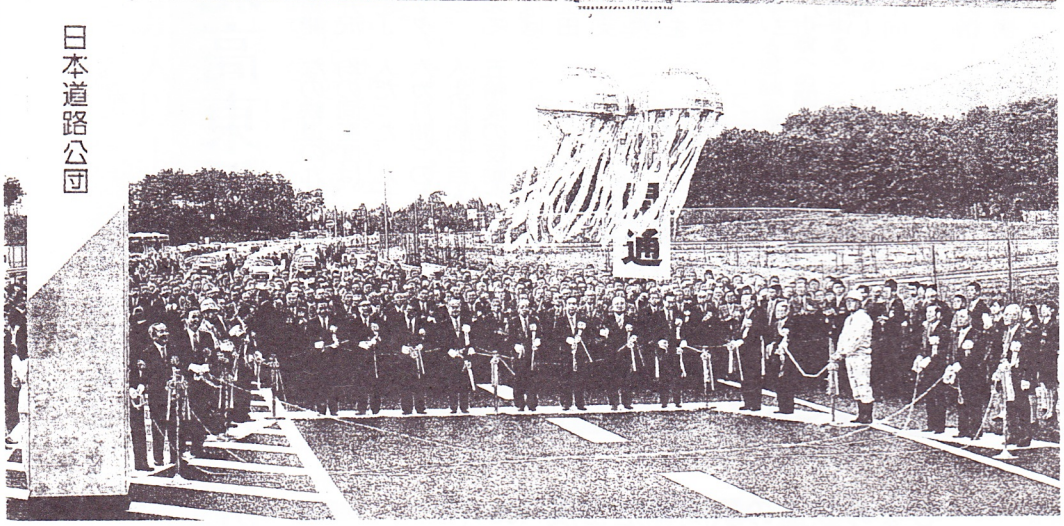
信濃毎日新聞（夕刊）1999年（平成11年）10月30日（

北陸―信越―首都圏 強まる連携

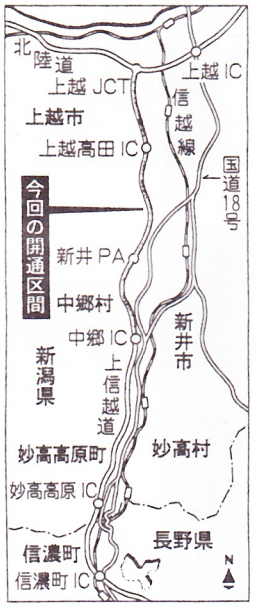
上信越道203キロが全通

祝 上信越自動車道 中郷IC～上越JCT 開通

北陸自動車道 上越IC～名立谷浜IC 4車線化完成



上信越道の全通を祝い、上越高田インターで行われたテープカット



最終区間「中郷ＩＣ―上越ＪＣＴ」完成

高速網の機能強化

上信越道で最後の未開通区間だった中郷インター（新潟県中郷村）―上越ジャンクション（同県上越市）間二〇・四㌔が完成、三十日午前、総延長二百三㌔が真新しい完成区間を参加者が車でパレードして上越高田インターに移動。テープカットで開通を祝った。

続いて上越市内で行った式典で、緒方総裁は「この完成で、高速道は北陸地方と首都圏の間で三ルート、中京、関西圏との間で二ルートがつながった。ネットワーク機能が強化され、災害時などの相互代替補完ルートが整備されたのは画期的だ」とあいさつ。加藤卓二建設総括政務次官は「上信越道と北陸道の連結で、首都圏と北陸地方との地域連携が活発化する。沿線地域の発展に大きく寄与する」と述べた。

上信越道は九三年三月、藤岡ジャンクション（群馬県藤岡市）―佐久インター（佐久市）間が開通して以来約六年半で全通した。この日開通した区間は九四年十二月に着工し、事業費は八百三十二億円。上越ジャンクションで北陸道に接続し太平洋側と日本海側を結ぶ高速道路網が完成した。

島崎藤村を敬慕する
経済評論家
三鬼陽之助
〒150-0033 東京都渋谷区猿楽町四―六
電話（〇三）三四六一―〇六一九

東京小諸会会長
長野県人会連合会相談役
社団法人 世界経済研究協会
専務理事 韮澤嘉雄
事務所 〒105-0001 東京都港区虎ノ門二―六―七 和孝第十ビル十階
電話（〇三）三五〇一―一三二一
FAX（〇三）三五〇一―一四二〇
自宅 〒174-0054 東京都杉並区松庵二―一五―一〇
電話（〇三）三三二―四三二八

東京小諸会副会長
長野県人会連合会相談役
株式会社 京橋堂
専務取締役 荻原冨久子
〒104-0031 東京都中央区京橋二―五―一七
電話（〇三）三五六一―一四五一
FAX（〇三）三五六一―六九八七

東京小諸会副会長
小山田法律事務所
弁護士 小山田純一
弁護士 菊地慎
事務所 〒104-0031 東京都中央区京橋二―一一―五 パインセントラルビル九階
電話（〇三）三五四一・三四七二
自宅 〒189-0001 東京都東村山市秋津町四―二二―一四
電話（〇四二三）九五―〇五六八

1999年（平成11年）7月27日（火曜日）　自治・総合　4

「北高東低」大きい開き　小諸―軽井沢どう改善

ニュースの視点

九七年十月の長野新幹線開業とともに、篠ノ井―軽井沢間（六五・一キロ）の経営をJRから引き継いだ第三セクターの「しなの鉄道」（長野市）。九八年度の利用状況を見ると、各駅間によって大きなばらつきがあり、篠ノ井―上田間の利用客の多さが経営を支えている。同年度決算では六億三千五百万円の当期損失を計上した。開業十年目に単年度黒字に転換する計画だが、収支改善には、既定路線の「三年ごとの運賃一〇％値上げ」ばかりでなく、利用の少ない小諸―軽井沢間をいかに上向かせるかの工夫も必要だ。

鉄道経営を比較する際の指標として使われる「輸送密度」。一日・一キロ当たりにどれだけの客が乗ったかを示す「列車の混雑具合い」だ。しなの鉄道の九八年度の全線平均の同密度は、八千七百八十人だった。九七年度（開業後六カ月間）の九千四百九十四人より約七百人の減少。長野五輪後の反動と、不況が響いた。

輸送密度は駅間によって大きく異なる＝グラフ。九八年度は、篠ノ井―屋代間が最高で一万八千二百七十二人。次いで屋代―戸倉間一万五千五百十八人、戸倉―坂城間一万三千九百四十人の順。少ない方からは軽井沢―中軽井沢間二千四百八十人、中軽井沢―信濃追分間二千六百八十四人、信濃追分―御代田間二千七百八十六人の順で、「北高東低」が顕著。最大と最小は約七・四倍の開きがある。

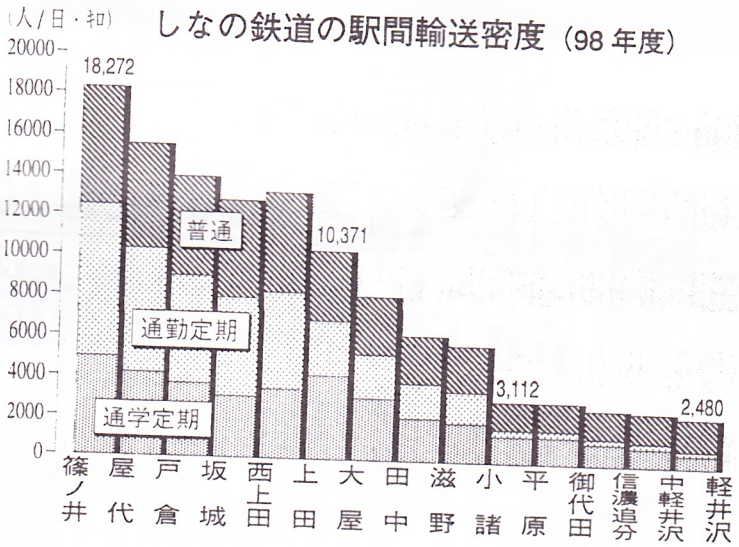
特に、長野新幹線から外れ、在来線のしなの鉄道と小海線のみの小諸駅から、新幹線に接続する軽井沢駅にかけての利用をどう増やすか―。

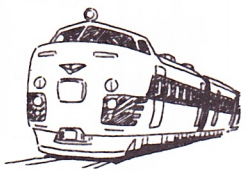
昨年度は、小諸―軽井沢間が一日乗り放題の「浅間高原1day切符」（大人六百八十円）などを発売。今年度は同切符に加え、軽井沢から上田まで乗り放題区間を拡大した「千曲川1day切符」（同千二百二十円）も十七日から発売しているが、知名度はいまひとつ。沿線人口の急増は望めないだけに、市町村や観光業者などと連携し、観光客らにPRする必要がある。

また、小諸―軽井沢間では、通勤定期の利用客の比率が極端に小さい。例えば小諸―平原間は、全輸送密度の一〇・七％にすぎない。沿線周辺に事業所が少ない上、マイカー通勤が多いのが要因とみられ、通勤利用を事業所に呼びかける努力も求められる。

列車内にトイレがないことで利用者から不満が出ていたが、八月一日から乗り降りの多い小諸駅の二・三番線ホームに、総工費約千七百万円で設置する。しなの鉄道は「多額の投資はできないが、一つ一つの努力の積み重ねで、利用客を増やしたい」としている。

しなの鉄道の駅間輸送密度





(1)1999年(平成11年)9月24日(金)　　お茶の間に明るい話題を提供する地域

品質を売る
お肉とお惣菜の専門店
ミートショップ 肉幸
小諸本店／TEL22－1695
荒町店／TEL22－7274

墓石のことなら……
市川石材店
小諸市栃木324-1 ☎22-2542

小諸新聞

発行／㈱小諸新聞社／小諸市与良／☎23・7007／FAX 23
購読料月840円(税込)／E－mail：knp96y@janis.or.jp／毎週金曜

市の事業を『出前講座』

メニューは55種類 10月から開始

5人以上集まればOK

五人以上の希望者が集まれば市の担当職員が出向いて、講座を開くという「出前講座」が、この十月一日から始まる。

市政への関心が高まっている感触を受けて開始するもので、メニューを全家庭に配布。希望を募る。

メニューは市役所の各部課が設定したもので、全部で五十五の講座を用意している。企画課が担当する「総合計画」や総務部の情報公開の話、下水道課の下水道事情は四つのテーマを設定している。また年金や介護保険もメニューに上り、体力測定や消防署見学などの体験的なものも含まれる。

市の休日を除く日の午前九時から午後九時まで、どの時間帯でも応じる。窓口の生涯学習課は「市政をより身近に感じてもらうことが目的。あわせて市職員にとっては研鑽の場となり、資質向上にもつながる」と話す。

出前講座は上田市、須坂市など県内五市に続く六市目。近隣町村では軽井沢町、東部町ですでに実施している。

【メニューから】

小諸市の総合計画（企画課）	小諸市の財政運営について（財政課）	条例規則の読み方　（庶務課）
救急法講習会　（消防署）	国民年金の話　（市民課）	介護保険制度とは（高齢者対策課）
小諸の観光　（商工観光課）	公共下水道の話　（下水道課）	学校給食について　（学校教育課）
郷土の文化財（生涯学習課）	議会のしくみ　（議会事務局）	農業委員会の仕事　（農業委員会）

『出前講座』

第一号は『健康づくり』で 本町の『ふれあい寿会』で

小諸新聞 10月1日

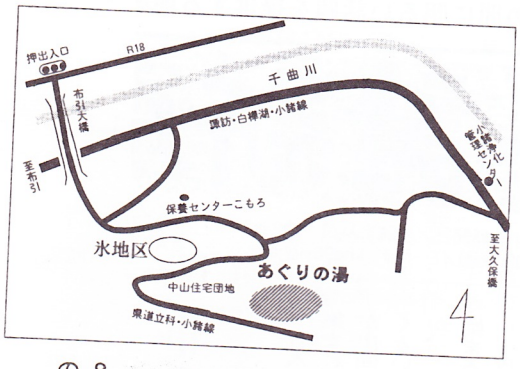
市政を広く市民に知らせようと、市の職員が勉強会の会場に出向いて講座を行う「出前講座」が始まって二週間。市民からの問い合わせが続いている。出前講座第一号は十三日、本町のふれあい給食会の会場で行い、高齢者が手作り昼食をいただきながら、健康づくりについて保健課の職員から学んだ。

出前講座は五人以上の市民が集まれば、市役所職員が出向いて講座を行うもので、メニューは五十五項目。税金や上下水道、道路、介護保険などの話や、健康体操や消防署見学など実践的な内容まで、自由に選ぶことができる。市役所が休みでない日の午前九時から午後九時までの、どの時間帯でもOK。講座は無料で、公民館など会場の使用料は依頼者が負担する。

出前講座第一号は本町の「ふれあい寿会」。「せっかく講座が始まったのだから」と代表の湯本悦子さんらが昼食会の中に講座を組み入れることを決めた。この日、昼食会に出向いた高齢者は六人。昼食を準備するボランティアと合わせ十人程が市保健課の井出友恵保健婦から健康づくりについて話を聞いた。井出さんの分かりやすい解説に参加者は熱心に聞き入り、初の出前講座はこぢんまりした会場ならではの和やか雰囲気になった。

問い合わせは多いが…

日帰り温泉施設



「あぐりの湯」8日オープン

小諸 露天ぶろも

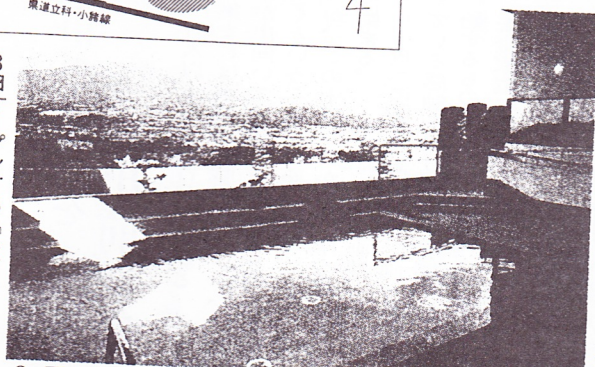
小諸市が大久保に建設していた温泉付き農村資源活用交流施設「あぐりの湯こもろ」が完成、七日の式典に続き八日オープンする。近くで自噴する温泉を利用した入浴室のほか、地元産農作物を使ったレストランや農作物の直売コーナーなどがあり、都市と農村の交流拠点を目指す。

敷地（約八㌶）は浅間山と千曲川の眺望が楽しめる場所で、施設は鉄筋コンクリート平屋約三千二百平方㍍。入浴室にはサウナ、水ぶろ、気泡ぶろのジャグジーなどがあり、露天ぶろも備える。車いすや寝たきりの人が使える福祉ぶろも二カ所に設置した。

農作物は、市内の約七十戸の農家が組合をつくって出荷する。レストランは七十二席。入浴客が休める二百六十平方㍍余の大広間や、調理施設を備えた農産物加工施設などもある。

施設の隣にはイチゴハウス三棟が完成しており、今年度末にあと二棟が完成する。既に苗も育てており、来年一月からイチゴ狩りが楽しめる予定だ。

運営は浅間農協が受託。営業時間は午前十時―午後九時（第二、四火曜日が定休）。入浴料は大人五百円、小学生三百円。福祉ぶろは二時間千円（要予約）。問い合わせは同施設（☎0267・24・4126）へ。


8日オープンする「あぐりの湯こもろ」の露天ぶろ

小諸市農村資源活用交流施設

あぐりの湯こもろ

本日10月8日(金)オープン！

小諸市長
小林俊弘

ごあいさつ

この度、かねてから整備を進めて参りました小諸市農村資源活用交流施設「あぐりの湯こもろ」が、本日10月8日オープンする運びとなりました。

「あぐりの湯こもろ」は、農村の持っている自然の豊かさ、多くの農産物と温泉を活用して、都市との交流を深める中で、農業の振興と地域の活性化を図ることと併せて市民の健康増進と憩いの場となることを期待しております。

幸い、当施設は、市街地と浅間連峰を眺望できる大変すばらしい場所に建設することができました。

当施設の運営は、ＪＡ浅間農協に運営委託する事としておりますが、「あぐりの湯こもろ」が市民の皆さんはもとより、近隣市町村、そして、小諸を訪れる観光客の皆さんに大いに利用されることをお願いをしてごあいさつといたします。

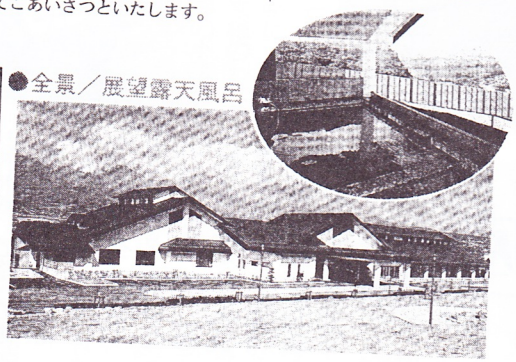
浅間農業協同組合
代表理事組合長
高地 忠男

ごあいさつ

小諸市より、農村資源活用交流施設「あぐりの湯こもろ」の管理運営を、この事業の趣旨からして、ＪＡ浅間で行ってもらいたいとの御要請がありました。

ＪＡの業務として、日帰り温泉の運営は初めてでありますし、又難しいと思いますが、この施設は温泉の他、地域農産物直売、加工、ふれあい体験農園等備えた、地域農業の振興と活性化であり、又都市と農村の交流の場所でもあります。地域の皆様のご支援を頂きながら、最善を尽くして、皆様の健康管理と増進、憩いの場所として、市民の皆様、全国の皆様に末永く愛される、「あぐりの湯こもろ」になりますよう頑張って参りますので、今後ともよろしくお願いを申し上げ、ご挨拶といたします。

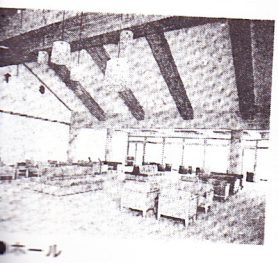
高原に育む活力ある
詩情公園都市
小諸市


●全景／展望露天風呂

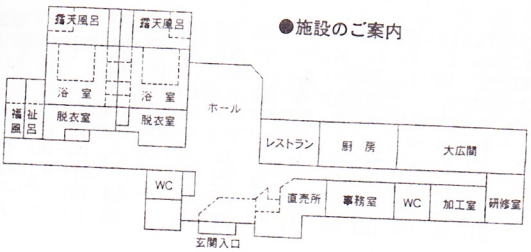
風かおる心がかよう地域づくり

自然にやさしい農業をめざす
JAあさま
代表理事組合長 高地 忠男

本所／〒384-0025 小諸市相生町2−3−5
TEL0267−22−9401 FAX0267−24−0551


●ホール

●施設のご案内



ご案内

●利用料金　大人（12歳以上）……500円
子供（6歳以上12歳未満）…300円
※その他各種施設の使用料は、施設へお問い合せください。

●営業時間　午前10時～午後9時
（受付は午後8時30分まで）

●休 館 日　毎月第2、4火曜日
（祝日と重なる場合はその翌日）

あぐりの湯こもろ 小諸市大字大久保中山1145番地1 ☎0267・24・4126（よいふろ）

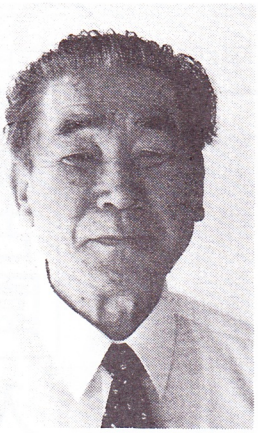
第849号 第三種郵便物 10月1日 小諸新聞

この人に聞く

小諸市菱平に昨年十月七日オープンした「小諸高原美術館」は、もうすぐ開館一周年を迎える。同美術館は、日本芸術院会員の日本画家・白鳥映雪画伯の作品を中心に、郷土にゆかりのある作家の作品を展示している。

そこで、田中良則館長に開館一周年を迎えての感想などを聞いてみた。

小諸高原美術館館長 田中良則さん



■一日平均百人の来館者

―滑り出しが良かったように見えたが、小諸高原美術館のこの一年間の入場者の推移と傾向は

答え 開館一カ月で六千人、二カ月で一万人を超えた。九月末で三万二千人を超えている。十月七日までには延べ三万五千人の入館者を予定している。平均して一日百人余が来館した計算になる。

特にこれといった入館者の目標数字は出してはいなかった。ただ、小諸市の人口が約四万五千人。市民には無料招待券も配布したので、小さい子供などを除いたとしても四万人の市民には来て欲しかったというのが私の思いだ。

■入館者の三分の二が市外、県外

―入館者の内訳と反応は

答え 来館者の内訳をみると、市内が全体の三分の一。残りを市外、県外者が占めている。市外、県外者からは「建物が立派」「館内が明るく、ゆったりしたスペース」「美術館の回りの景色が良い」など評価を得ている。

■一年に四回行った企画展

―これまでの企画展の反応は

答え この一年間に企画展は四回行った。中身は、小諸義塾教師だった丸山晩霞の作品展、白鳥画伯の師・伊東深水の「小諸を描く」水彩画展、郷土の作家展など。今後もこのペースで開いていきたい。

開館を記念した最初の企画展は、県内に散らばっている白鳥画伯の美人画三十点の作品をはじめ、水彩画の小山周次、丸山晩霞、木版画の北沢収治などの作品を第一、二展示室、市民展示室までを利用した大規模な企画展となった。また、伊東深水の「小諸を描く」は未公開の作品ばかりで、しかも小諸を描いた作品とあって人気を集めた。

■十月十日から企画展「北沢収治版画展」、「内堀一男洋画展」

―入館者を増やすためにはどんな計画をしている?

答え 今年の十二月までに来年度の展示内容などを決める。その中で、今年よりも入館者を増やせるような特色ある中身にしたいと考えている。それぞれの絵に簡単な解説をそえる工夫も行っていきたい。

市民の方にも一度見たから終わりでなく、何回も足を運んでもらいたい。一回目と二回目ではまた違った印象を受けるのではないか。

ちなみに、十月十日から十一月二十八日まで企画展「北沢収治版画展」、「内堀一男洋画展」を開く。

■美術室や絵画室を広く開放

―もうひとつの特色である貸し館としての機能は

答え 学芸室や絵画室などを広く一般に利用してもらおうと貸し出しているが、申し込みは未だにない。ただ、それらの会場を使った美術館主催の書道や日本画、陶芸教室には現在七十人ほどが通っている。講師がいるから参加する―といった傾向があるようだ。

現在行っている教室も十一月には終了。市民展示室などで作品発表の場も設ける予定。来年四月から教室の参加者をまた募集するが、多くの人に参加してもらいたいと思っている。

××××××

[田中良則館長]

佐久市野沢小学校の校長を最後に教職を辞して十二年。これまで郷土博物館館長、藤村記念館館長などを務めている。信州美術会、佐久美術会のほか、全国組織の「示現会」に属する洋画家。小諸市六供の自宅に夫人と二人暮らし。七十二歳。

入館者これまでに3万2千人

見たり聞いたり 小諸路

○…浅間山の火口をヘリコプターで遊覧する「遊覧ヘリ」が、二十四日で終了した。遊覧は、八月末からの十日延べ二十日飛行。合計で千人を超える利用客があった。半数は県外客。県の東京事務所に寄せられた問い合わせで、最も多かったのがこの「遊覧ヘリ」だったという。小諸市や御代田町などで力を入れはじめた浅間山登山の規制緩和の「プレイベント」は、まずは大成功とみていい。

○…約七分のフライトで五千円―という値段設定に、「ちょっと高いのではないか」との声もあったが、蓋を開けてみれば利用客の反応も上々。離発着する高峰高原には、多い時で絶えず二十人ほどの行列ができた。

黒斑山を超えると、急斜面の下に草原が広がる。眼下に目を奪われていると突然、目の前に雄大な浅間山が姿を見せる…。「冥土の土産になった」「また乗ってみたい」という声が相次いだ。車いすで利用した客もいた。歩行が困難な人にとっても、思い出深い〝浅間山登山〟になった。

○…ただ、ここに来て思わぬ問題が指摘され始めた。

最近になって、浅間山周辺に以前確認されていた貴重な鳥類の目撃例があり、「騒音によって貴重な鳥の営巣に影響が出るのでは」と心配する声が観光協会に寄せられている。また、「ヘリコプターがひっきりなしに飛んでいて登山の雰囲気が壊れてしまう」との苦情も。

下界の「規制緩和」騒ぎとは無縁と思われていた遊覧ヘリ。浅間山上空の雲行きが、どことなく怪しくなってきた。

小諸新聞 10月24日 (村)

諸新聞　小諸新聞　1999年(平成11年)10月15日(金)　(6)

夏シーズンの七、八月——

懐古園 入園17%ダウン

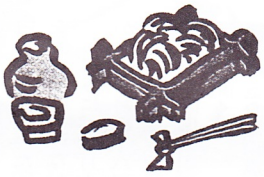
この夏の佐久地方の観光地の入り込みが、昨年に比べ大幅に落ち込んでいる。年間通して、最も観光客の多い七—八月の入り込み状況では、小諸市の「懐古園」で前年比を約一七%も下回る六万九千人。軽井沢町で前年比二・三%減の三百六十三万人と、いずれも大幅な減少となっている。ただ、これといった減少の理由が見当たらないことから「分析も難しい状況」(小諸市商工観光課)と、首を傾げている。

高峰高原ホテルは前年比20%増

「懐古園」は、この春までは順調な入り込み状況で、五月の一カ月間で前年比を八%も上回る約五万人が入園していた。が、その後は団体客利用が落ち込み、昨年の年間入園者約三十一万七千人を下回る可能性も出てきている。商工観光課では、「台風など天候の影響も多少あるだろうが、これだけの落ち込みには至らないはずなのに…」と、表情を曇らせる。

佐久地方の観光業者によると、このところの観光の傾向としては、「名所旧跡」を訪ねる内容から、「自然」を観察したり体験するエコツーリズムに人気が集まっているという。小諸市の高峰高原にある「高峰高原ホテル」では、浅間山や黒斑山などの登山者の宿泊が増加し、前年比を二〇%以上も上回る利用でにぎわいを見せた。

ちなみに、佐久地方の観光地ではこのほか、佐久市の「ハイウェイオアシス」が、前年を若干下回る約八万人。長野県を代表する長野市の「善光寺」でも、一五・七%減の百三十六万六千人となっている。



10月15日 小諸新聞

小諸のそばはこれ一冊でOK

『会員店ガイド』自慢メニューや店の特徴を紹介

信州こもろそば振興会

小諸新聞 10月10

小諸市のそば関連業者二十六事業所で作る「信州こもろそば振興会」(南沢哲大会長)は、会員店の自慢メニューや特徴などを紹介した冊子「会員店がいど」をこのほど制作。近く、会員店の来店客に配付する。

「がいど」には、各店の自慢メニューやそばの製法、店のこだわりなどを紹介。このほか振興会の活動内容や、ガイドマップ、「そば団子」や「そば茅のおひたし」などそばを使ったメニューの作り方も掲載している。A4版十四ページ立て。

そば振興会は昨年発足。「そば大食い大会」など市内で開くイベントへの参加や、会員対象の研修会などを開催。今年は、市内外のそば愛好者を募り、そば蒔きからそば打ちまでの一連の作業を体験する「そばパックツアー」にも取り組んでいる。

火山館 来月完成

ログハウス シェルター機能 「学習の拠点」としても

小諸市は、今年度四千百万円の予算を計上して浅間山の登山道にある山小屋「火山館」の建て替え工事を行っているが、すでに基礎工事などが済み、現在はフィンランドから届いたログハウス資材をヘリコプターで運び、本体を組み立てる作業に入っている。

前の「火山館」は、「明治末頃に建てられたらしい」(小諸市商工観光課)という。昭和四十八年に起こった噴火で、登山規制がかれると、利用者が減少。それまで民間が運営していた「火山館」を小諸市が昭和五十二年に買い取り、四年間運営したあと、ほとんど利用されていない状態が続いていた。

新しい「火山館」は、木造二階建てのログハウスで、延床面積は約百三十平方メートル。地下には、従来のシェルター(約五十人収容)を設けている。

新しい火山館は、▽野生植物保護の拠点▽緊急時の避難誘導に目的が置かれ、館内には高山植物の写真なども飾る計画。また、火山の学習会や探鳥会などを開いて「学習の拠点」としたい考えもある。

「火山館」の完成は十一月下旬を予定している。

(3) 1999年(平成11年)9月10日(金) 小諸新聞 小諸

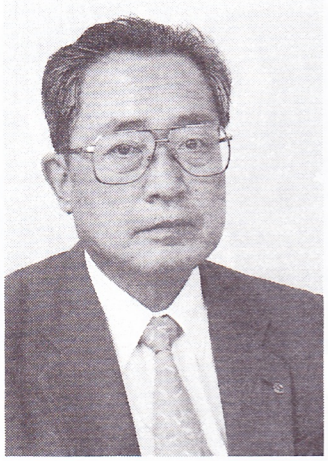
こもろ 商工会議所だより

「小諸商工会議所だより」は、記事広告として毎月一回掲載します。

5回目迎える 『信州小諸ふーどまつり』
広がる活性化の輪

南沢哲夫専務理事に聞く

市内五つのサービスエリアを核に「食」と「風土」をテーマにしたイベント「信州小諸ふーどまつり」は、十月三日(日)に開催する。商店街をはじめとする小諸市の活性化を目的に、中心市街地全体をエリアにした一大イベントも今年で五回目の節目となる。これまでの経過や今後の展望を踏まえ、小諸商工会議所の南沢哲夫専務理事に総括してもらった。



▼イベントの目的は、この五年間でどの程度達成できたか?

南沢 イベント自体の規模や参加者の盛り上がりは、年々高まってきている。市民まつりと並ぶ小諸市を代表するイベントに成長してきた感も強い。ただ、このイベントが中心市街地の商店に与える経済的活性化がどの程度浸透しているかについては若干疑問も残る。

▼商店主の中には「イベントによる店への効果はない」とする声もあるようだが…

南沢 イベントをただ見守っているだけ、あるいは商売よりもイベント参加を優先するのでは、効果は得られるはずがない。参加者から「せっかくのイベントなのに肝心な店が閉まっている」という声も寄せられるが、これでは本末転倒だ。

▼商店主に対してイベントの目的を再度PRすることも必要なのでは?

答え 今年は、商店会連合会が加盟事業所に対してより積極的に商売するように呼びかける方針を打ち出している。また、単に店を開けておくばかりでなく、その店の「お宝」を展示したり販売する企画も打ち上げている。店の前をあれだけ多くの人が歩くイベントは数少ない。客を店に呼び入れるような工夫も必要だ。イベントは「もてなしの心」や「魅力ある商店、商店街づくり」を再度確認するきっかけとして位置づけてほしい。

▼商店だけでなく、イベントには様々な団体、個人も参加する。市民のまちづくりに対する意識も高まっているように思うが―

南沢 「ふーどまつり」は、市全体の活性化をも視野に入れている。普段はなかなか中心市街地に足を運ぶ機会のない人も、このイベントを通して町の良さ、活気を見いだしてほしい。観光客や近隣市町村から訪れる人々の受け皿ともなりたい。小諸に対する愛着や誇りを持つきっかけになってくれれば、これほど有り難いことはない。

小諸新聞　1999年(平成11年)10月8日(金)　(6

ふーどまつり

小諸のまちじゅうをサービスエリアにーと、市内五つの会場で「フード(食)」と「風土」にちなんだイベントをおこなう「信州小諸ふーどまつり」は二日行い、多くの市民が町を歩く姿が目立った。

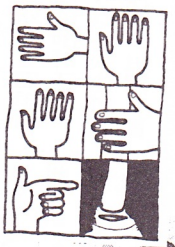
五回目を迎えたふーどまつりは、地元商店のまつりへの出店や関連売り出しなどの参加が増えた。また車での移動でなく、徒歩でサービスエリアを回る市民が目立ち、市内がにぎわいを見せた。

大手門ＳＡ　ＪＣが『おにかけそば』

小諸青年会議所は「おにかけそば」で初めて参加。大鍋に用意した500人分は当日の涼しさも手伝って大人気に。

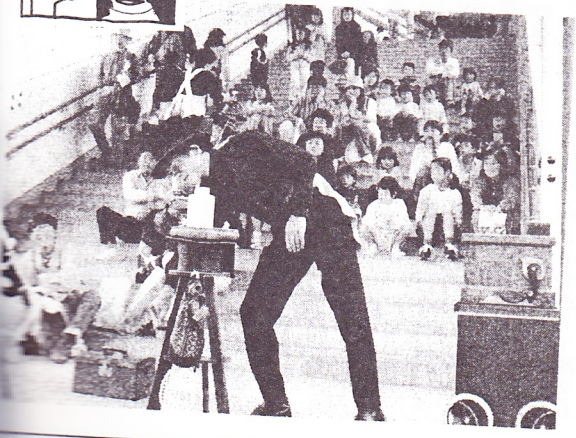
与良ＳＡ　ワインや日本酒の試飲

五穀豊饒接待では、地元の酒屋三店が協力して日本酒、ワインの試飲会を実施。好みの酒を味わった。



中央ＳＡ　多彩な内容でフリーマーケット

市民の有志らが出店したフリーマーケットは多彩な内容。売る側と買う側のコミュニケーションでやわらかい雰囲気。



小諸駅ＳＡ　東西自由通路がギャラリーに

小諸駅ＳＡでは東西自由通路でふれあいバザーを実施。駅側の階段はギャラリーに変身。大道芸に拍手かっさい。

荒町ＳＡ　人気のサンマに行列

サンマは行列のできる人気。千百尾用意したサンマは、あっと言う間に底をついた。

小諸新聞 8月27日

「オーストラリアから帰ってきました」
中学生六人が報告

小諸市が市制施行四十五周年の記念事業として行った「中学生海外派遣交流事業」で帰国した中学生六人が十八日、小林俊弘小諸市長らに帰国報告をした。

中学生は八月二日から九日までの八日間の日程で、オーストラリアのケアンズを訪れた。現地では、ケアンズ市役所表敬訪問や熱帯雨林を見学したり、学校を訪れ交流などを行った。日本から竹トンボやコマも持っていき、現地の生徒に紹介して楽しんだ。

小諸東中二年の森山ゆかりさんは「ホストマザーがやさしくしてくれ、分からない言葉もジェスチャーで教えてくれた」と話した。「国際化時代と言われる中、今後益々外国人との交流はしていかなければいけない」と小林市長。生徒と市長らはしばらくの間、写真を見ながら食事や気候のことなどの話を弾ませていた。

8月27日 小諸新聞

オーストリアの青年17人受け入れ
小諸青年友の会

オーストリアの青年十七人が、二十一日からの二泊三日で小諸市を訪れた。受入れた小諸世界青年友の会（高木蘭子会長）会員宅へのホームステイや松本城の見学などを通して、市民との交流を楽しんだ。

二十一日、小諸市民会館で開いたウエルカムパーティーでは、小林俊弘小諸市長のほか国際交流事業を行う小諸ロータリークラブや小諸浅間ロータリークラブの代表者が出席。「乾杯」を重ねながらメンバーの訪日を歓迎した。

小諸青年友の会は、年一回の割合で海外からの訪日団を受入れながら、会員をはじめとするホームステイ事業で国際交流活動を広げている。

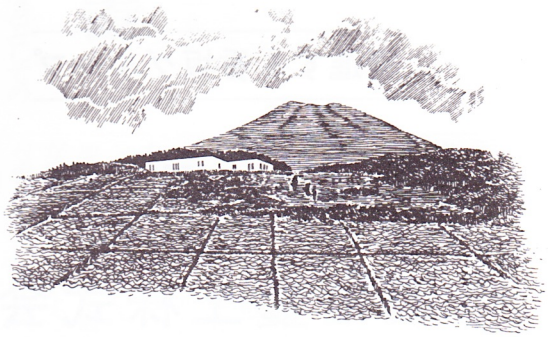
一週間の滞在中、メーンのイベントとなったミュージカル公演「ロード」は十六日、小諸市民会館で開いた。スピード感あふれるミュージカルの展開に、約七百人の観客からは大きな拍手が贈られていた。

広がった国際交流　世界各国から120人
『アップ・ウィズ・ピープル』小諸訪問

地域活動の一環として、相生町商店街で開いた「バナナのたたき売り」体験。商店街のはっぴをまとい、「買いな買いなバナナを買いな」のかけ声が、道行く買い物客の注目を浴びた。一風変わったたたき売りの成果もあって、バナナは飛ぶように売れた。

世界各国から集まった約百二十人の若者でつくる国際交流団体「アップ・ウィズ・ピープル」の一行が、今年も十二日から十九日まで小諸市を訪問。滞在中は小中学校訪問のほか、稲刈りや座禅体験を行い、市民らと交流を深めた。

アップ・ウィズ・ピープルは、十八歳から二十八歳までの若者で構成。世界各地でミュージカル公演をしながらホームステイして回り、国際感覚を養うことを目的にしている。



小諸

マンズワイン株式会社
小諸ワイナリー

〒384 小諸市諸375
☎0267-22-6341 ご見学可

新聞　小諸新聞　1999年(平成11年)11月5日(金)　(4)

新・『浅ぼんカード』今日から発行

加盟63店・独自のサービス

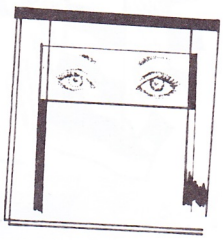
小諸市の相生町商店街振興組合は、加盟店独自のサービスを受けることのできる新しい「浅ぼんカード」を、今日五日（金）から発行する。千人のカード会員獲得を目標に、加盟店六十三店が会員の募集を一斉に始める。

カードは、同商店街を利用する客が発行の対象。サービス内容は、記念品贈呈や商品の割引びき、通常よりも多い「こもろスタンプ」進呈ーなど様々だ。

同商店街が進める情報化事業の一環。初めて発行した昨年のカード枚数は三百・千枚だったが、今年はカードを一新しサービス内容の見直しも図った。また、新たな試みとしてカード利用客のデータを蓄積し全加盟店に公開。各店舗でこの情報を活用する計画だ。カード自体には情報を書き込むことはできないが、「客と店がカードを通して情報交換することで、対面販売の原点に立ち返る」というねらいもある。

「浅ぼんカード」についての問い合わせは、相生町商店街振興組合事務局（電話0267・22・2364）。

対面販売の原点に返る
1000枚発行　データ活用も



躍進する香坂グループ

株式会社 香坂建設

信濃培養土株式会社
代表取締役 香坂　勝

株式会社 シンコー土地
代表取締役 山崎　武信

本社／小諸市甲92番地　☎0267-22-1184(代)
信濃培養土(株)　☎0267-22-5439
(株)シンコー土地　☎0267-25-2111

日本画

渡辺幸子さん
＝小諸市中松井＝
日展で特選「ショーの日」
2日～24日　東京都美術館

小諸市中松井の渡辺幸子さん（56）は東京上野で開催中の第三一回日展で特選を受賞した。

作品はP一五〇号の「ショーの日」。青や紫系の微妙な色使いで、出番を待つサーカスの芸人が舞台では見せない厳しい表情をたたえ緊張感に包まれている様を描いた作品。この春、長野市で行ったサーカス興業に二週間通い続けた。

渡辺さんは日展五回の応募のうち入選三回を受賞し、続けて今回の特選受賞につなげた。「まだ実感がわかない。今後も奥の深い〝人物〟が描けたら…」と話す。

日展は東京上野の都美術館で二十四日（水）まで開いている。小諸新聞 11月5日

1999.2.25(木) 第三種郵便物認可 信毎 朝刊 15面

スケッチ文化都市に

島崎藤村にちなみ…小諸で構想

商議所など市に要望書

小諸市ゆかりの文豪島崎藤村の「千曲川のスケッチ」にちなんで、市全域を「スケッチ」の場に提供し、人々の交流をまちづくりにつなげよう―との構想が持ち上がり、小諸商工会議所と市観光協会、市区長会は二十四日、代表者の連名で「スケッチ文化都市」宣言に関する要望書を市に提出した。豊かな自然や歴史的文化遺産といった小諸ならではの財産を生かし、「書く」「撮る」「作る」などの創作活動の場とすることで、小諸を訪れ、住む人を増やそうとの狙い。小林俊弘市長は「非常によいことなので、議会と相談したい」と答えた。

「スケッチ文化都市」宣言を求める要望書を小林市長に提出する小諸商議所の香坂会頭＝小諸市役所

「スケッチ文化都市」構想は、同市和田の会社役員で、まちづくりグループの活動にもかかわっている木島和郎さん(五八)が提唱。新幹線開業で小諸に特急が通らなくなり停滞感も危ぐされる中、「絵や文、音、映像などの創作活動で小諸に人々が集うようにする」という発想だ。

市内には、浅間山から千曲川まで山岳、田園などの景観美や、懐古園をはじめ城下町、商都などとしての歴史資源があり、藤村や小山敬三ら小諸ゆかりの作家、画家なども数多い。木島さんは「他の都市にまねのできないスケッチに適した場面も多々ある」として、市内の各種団体などにこの構想への賛同を呼び掛けてきた。

この日は香坂勝・同商議所会頭と酒井輝雄・同協会副会長が市役所を訪れ、小林市長に要望書を提出した。同市長は「市も昨年、市内の景色の美しい場所を『眺望百選』に選定しており、うまく活用したい。三月か六月議会に宣言できるようにしたい」と話した。

市観光協会は二十三日開いた総会で、九九年度に開催するイベントは「スケッチ文化都市」構想に対応させる工夫をすると決めている。

小諸城址 懐古園

藤村をしのび 自作の歌披露も

小諸で57回忌

島崎藤村の命日に当たる二十二日、小諸市の懐古園にある藤村記念館前で、五十七回目の藤村忌「花と歌を捧げるつどい」が行われた＝写真。藤村文学のファンや研究者約三百人が参加、懐古園を訪れた観光客が周囲を取り囲むように藤村をしのぶ行事に見入っていた。

藤村の胸像前で式は行われ、藤村文学の研究者として知られる伊東一夫・東洋大名誉教授が「藤村についての思い出と思想」と題して、藤村の近代文学における業績や小諸に残した足跡などを話した。

市民の有志が自作の歌や俳句を次々に読み上げて献歌、献句をした後、浅間吟道会のメンバーが「千曲川旅情のうた」を朗々とうたい上げた。このほか、合唱グループ、コールフローラ小諸や小諸草笛会が歌や草笛の演奏を披露、また小諸市内の野岸小学校や小諸東中学校の児童、生徒が藤村の作品の一部を群読したり、藤村作の歌を合唱した。

この日は観光客も多く、木漏れ日を受けながら見守っていた。

パリ在住の日本語教師・ロッセさん

島崎藤村の「破戒」仏語に翻訳出版

下諏訪の伊東さん協力

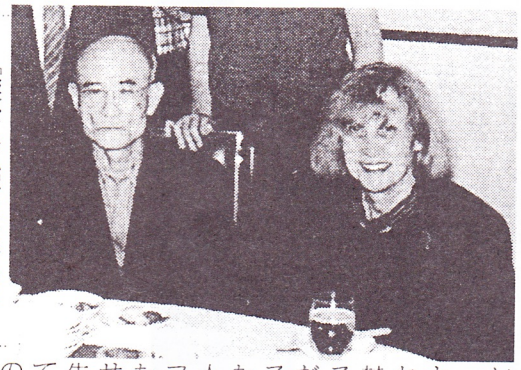
島崎藤村の「破戒」のフランス語訳「LA TRANSGRESSION」がこのほど、フランスで出版された。

翻訳したのは、フランス人でパリ在住の日本語教師、スザンヌ・ロッセさん（セニ）。ロッセさんの友人で、翻訳に協力した東洋大学名誉教授で、藤村研究家の伊東一夫さん（六四）＝諏訪郡下諏訪町＝は「藤村の作品は、表現が象徴的で俳文的なため、外国語に訳しにくい。それだけに、ロッセさんの取り組みはありがたい」と喜んでいる。

ロッセさんはパリ大学やハーバード大学などで日本語を学び、日本文化に深い関心をもっている。安部公房の作品などの翻訳に取り組むうちに、次第に藤村の作品にも心引かれるようになり、一九八四年には「家」の仏訳を出版した。

仏語に訳した「破戒」のタイトルは日本語にすると「違反」というような意味。翻訳には四、五年かかり、今年三月にようやく完成した。その間、伊東さんは作品の中に出てくる難しい用語の意味や日本の生活風習などについて教えるなど翻訳作業に協力した。ロッセさんは現在、「新生」を翻訳中で、「いずれは『夜明け前』も」と意欲を見せている。

伊東さんによると、ロッセさんは「藤村はフランス文学にあこがれ、フランスに来たこともある。その人の作品に、フランス人はもっと心を寄せるべきだ。生涯にわたって藤村作品の翻訳を続けたい」と話しているという。



「破戒」を仏訳したスザンヌ・ロッセさん（右）と、翻訳に協力した伊東一夫さん＝1997年、東京都内で

信毎 8月21日 朝刊

Toson Shimazaki

千曲川の旅情

千曲川の旅情で思い出す。仏人アグノウェー氏の筆で、私の旧詩「小諸なる古城のほとり」を仏訳されたものがある。与謝野君の「明星」誌上に掲載されたもので、当時病床にあった有島君ともあの訳詩について語り合ったこともあった。めずらしく、なつかしいままに、いまだに私の手もとに残っている。

Alentours du vieux castel
à Komoro.

Tout autour du vieux castel
à Komoro
Des nuages blancs……Le voyageur s'attriste.
Le mouron vert ne perce pas,
Jeunes herbes aussi sont recouvertes !
Sur les collines, tapis d'argent,
La neige, couche légère, fond au soleil et glisse.

Malgré la chaude *lumière*
Aucun parfum ne monte encore des champs.

Le printemps hésite dans un brouillard léger :
A peine si les blés ont pris leur teinte verte.
Des voyageurs par troupes se hâtent sur la route au travers des prés.

Puis c'est le crépuscule : l'Asama n'apparaît plus ;
De Saku un pipeau gémit sa mélopée,
J'ai fait halte à l'auberge près du rivage,
Là où s'attardent les flots de la Chikuma
Piéton solitaire, je boirai le rude saké champêtre
Pour, un peu, me consoler.

Haguenauer

東京小諸会常務理事
税理士
高橋昭平
〒152 0021 東京都目黒区東ケ丘一 二八 八
電話（〇三）三四一八 〇四一六

東京小諸会副会長
カルピス株式会社
顧問
小山洋之介
〒150 0013 東京都渋谷区恵比寿西二 二一 一
電話（〇三）三四六三 三五四一

東京小諸会理事
大池あさの
〒153 0062 東京都目黒区三田二 一〇 一一
電話（〇三）三七一三 四二一〇

東京小諸会理事
小山陽太郎
〒245 0003 横浜市泉区岡津町一五〇〇 二
ルネ戸塚瀬生台九一一
電話（〇四五）八一四 二六三五

1999. 9. 19
毎日 8月21日

歴史ドキュメンタリー 関ケ原

人とモノの〈天下分け目〉

㉕

● 楠戸 義昭 ●

カネに負けて大遅参

関ケ原での家康の勝利の陰で、後に徳川2代将軍となる秀忠率いる3万8000人余の徳川主力軍の大遅参が、家康に衝撃を与えた。

家康の重臣たち、すなわち榊原康政、大久保忠隣、本多正信、牧野康成、高力忠房ら多くの譜代の大身武将たちは、秀忠のもと木曽路（中山道）にあった。そして関ケ原合戦の2日後の9月17日、妻籠宿（長野県南木曽町）で、味方の大勝利を聞き、喜びよりも、失望、無念の思いにかられ茫然とした。

家康とともに関ケ原にあったのは、守備を主体にした旗本で、西軍に立ち向かった先陣の将兵は井伊直政、松平忠吉率いるたった6000人余だった。家康は秀吉恩顧の武将たちの力によって、関ケ原で勝てたのだ。

大津にいた家康は、遅参を怒って、やっと草津にたどり着いた息子秀忠に、なかなか会おうとはしなかった。

ところでこの秀忠の大遅参は、石田三成に味方する上田城（同県上田市）の真田昌幸・幸村父子の老獪な策にはまって、ついにこれを打ち破れず、足止めをくらって日を費やした。さらに木曽路は日本一の険路の上に、悪天候が災いして行軍を阻んだ。

しかしもう一つ、大遅参の要因になったのは、〝経済問題〟である。

3万8000人余の軍勢を動かす資金が不足し、小諸城（同県小諸市）で立往生してしまったのだ。

秀忠は会津の上杉景勝を討つため宇都宮にいた。そして石田三成の挙兵に反転する。はじめ江戸に帰って旅支度をするつもりでいた。ところが事態は急を告げ、江戸に立ち寄らず、中山道に入った。

このため大身、小身にかかわらず、従軍将兵の皆が道中の資金に困りながら、何とか信濃の国に入り、真田勢と戦うのである。

だがその先、兵を進める旅費がない。秀忠自身の所持金も少なく、家臣たちにカネを貸せなかった。そこで本多正信がカネを工面するため江戸まで戻るはめになった。よって秀忠は小諸城に滞在せざるを得なかったのだ。

では東海道を進んだ家康はどうだったのか。

家康は小山の陣に上杉討伐に従った諸将を集め、挙兵した三成を先に討つことが決まる。この時、以前に触れたが、掛川城（静岡県掛川市）の城主・山内一豊が「私の城を家康公に差し上げます」といって、城を献上し、他の諸将もこれにならった。

資金不足で秀忠がやむなく滞在した小諸城（長野県小諸市）

諸将とは東海道筋にあった浜松城の堀尾忠氏、岡崎城の田中吉政、清洲城の福島正則、駿府城の中村一忠らである。これらの城主は豊臣秀吉が、家康が謀反を起こすことがあった場合を想定し、布石した諸将であった。その彼らが逆に家康に味方した。城を差し出すということは、その城に備蓄した資産も差し出すことだった。

だから東海道を行く家康は、何の経済的な心配もいらなかった。渡河する場合も、城を差し出した諸将の命令のもと、舟を繋げた浮橋などが川並衆の協力で造られた。

これを迎え撃つ三成は木曽川を越えた清洲を押さえ、家康軍を討とうとした。だが秀吉恩顧の大名に支援され、経済的心配を払拭した家康軍のスピードがあまりに早かった。このため木曽川を西軍は渡れず、関ケ原が戦場になってしまったのだ。

そして経済的ポイントが清洲城にあった。

秀吉は子飼いの福島正則に東国に兵乱が起きた時のことを考慮して、30万石の兵糧を清洲城に備蓄していた。

この米を正則は、東軍の前線基地となった赤坂（岐阜県大垣市）に、地元民を動員して運ばせた。

秀忠が資金に窮し、ついに関ケ原に間に合わなかったのとは反対に、家康は潤沢な秀吉が備えた財産を使って、一気に関ケ原をめざし、勝利したのである。（編集委員）

小諸新聞　1999年（平成11年）10月22日（金）（10）

『虚子記念館』着工

与良「虚子庵」横 来春完成

小諸の文化の拠点に

小諸市は小諸市与良の「虚子庵」隣りに「高浜虚子記念館」の建設を十月から始めている。完成は来年一月二十八日の予定。

記念館は約百五十平方メートル、木造一部補強コンクリートブロック造りの平屋。屋根は和瓦、外壁はしっくいにするなど、景観にも配慮した。全体の敷地面積は五百五十平方メートルで、駐車場も整備する。建設費用は約七千万円。このうち、約半分が全国の俳句愛好家らから記念館建設基金として寄付された。

館内は約五十平方メートルの第一展示室と、これとほぼ同じ広さの第二展示室がある。

第一展示室には、「六曲一双句屏風」や「連峰の高嶺々々に夏の雲」などの掛け軸、虚子胸像などを展示する。

第二展示室は会議室や句会、企画展などに利用していく方向だ。開館は三月下旬頃になる見通しで、現在開館を記念した全国大会の計画も進めている。

高浜虚子は明治三十一年に俳句雑誌「ホトトギス」を主宰、昭和十九年（虚子七十歳）から四年間を小諸市で過ごした。小諸市滞在の四年間に「山国の蝶を荒しと思はずや」などの多くの名作を残している。

5号缶 固形量200g詰

信州博小諸の日に
大好評頂きました

はな豆の缶詰です

地元浅間高原産の一級品の原料を使用しています。
郷土の特産として、贈答品、おみやげとして、御利用ください。
３本詰め、６本詰め、１０本詰めなど御座います。
多少にかかわらず全国発送致します。

平成４年度長野県園芸特産展入賞
小諸市推薦土産品認定品

株式会社 高嶺商会
小諸市和田５４７－２１
TEL ０２６７－２２－３８３２
FAX ０２６７－２２－４３９６

1999.10.2. 週刊長野　1999年

信州

雑学の食卓

⑳

中田　敬三

奈良、平安からの貴族の雅びな遊び

曲水の宴

五月、小諸市で曲水の宴が行われた。

曲水の宴は、奈良から平安時代のころの、歌詠みと酒を組み合わせた貴族らの遊びだ。盃をゆっくり流すために水路を曲がりくねって引く。広くて平らな土地が必要だ。各地に遺跡はあるが、信州にその跡があると聞いたことがない。まして、実際に曲水があるとは、寡聞にして知らなかった。

曲水の宴を催したのは、茶道の長野石州怡渓（いけい）会。同会副理事長の中村よし子さん（長野市松代）の話だと、平成元年から茶会の行事として曲水の宴を行ってきた。今回で十一回目。小諸市マンズワイン工場内の日本庭園で薄茶席、野点の茶会のあと、茶道江戸千家小宮山宗輝さんの協力で、王朝時代を再現する曲水の宴を開いた。

まず小川の上流から酒の入った盃が流れてくる。盃が流れてくるまでに歌を作った。白張（はくちょう）と呼ばれる白装束の女性が盃を寄人に運び、寄人の歌を奉行が読み上げる中で、盃を干す。今回は場所がワイン工場だったので、白ワインが使われた。庭園には琴の音が流れ、雅びな雰囲気を盛り上げた。

マンズワイン小諸工場の中山正男次長によると、曲水のある庭は万酔園と呼ばれる。約三千坪の中に、滝、池、茶室、あずまや、大刈り込みを配置してある。信濃国をイメージしてあるそうだ。略図を見ると、水路は途中で二本に分かれ、茶室の前で合流する。総延長約五十㍍。これだけの広大で本格的な日本庭園は県下にないのではないか。同工場には見学コースがある。無料で庭園散策やワインの試飲を楽しめる。

曲水は正式には「ごくすい」と発音した。中国では漢代以来、三月上戸（じょうし）＝陰暦三月最初の巳の日。後に三月三日）に水辺でお祓（はら）いをし、酒を飲む風習があったのが起源といわれる。

日本へ伝わったのは古く、「日本書紀」の「顕宗記」に、顕宗天皇元年三月上戸、「後苑に幸（いでま）して曲水宴をきこしめす」と出ている。この記述についてはは「太平の世になったことを示す編者の述懐」という見方もあるが（小学館『日本古典文学全集』）、翌年、翌々年にも記述があることから、実際に行われたと見てよいのではないか。とくに、翌二年には「公卿太夫（まえのきみたち）・臣（おみ）・連（むらじ）・国造（くにのみやつこ）・伴造（とものみやつこ）を集めて宴会をされ、群臣は万歳を唱えた」と具体的に書かれている。

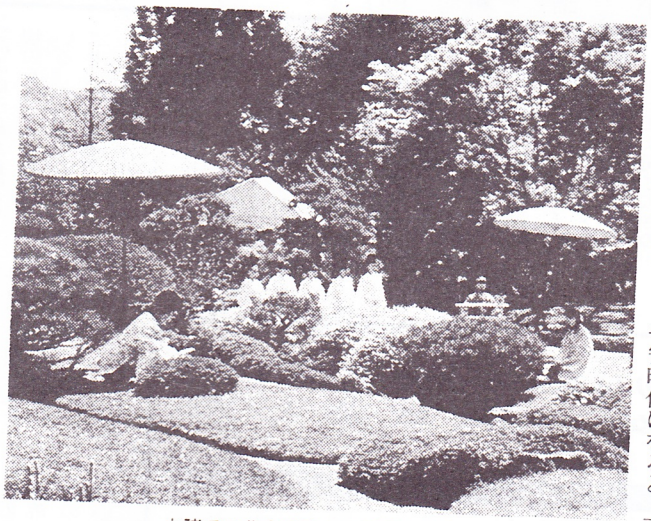
平安時代になると、平城天皇が先帝（桓武天皇）と皇太后の命日が三月だったので、一時中止した。平安中期に復活、康保三年（九六六）三月三日に、清涼殿の東庭で盛大に行われた記録がある。

韓国の古都慶州で曲水の遺跡を見たことがあるが、大規模なものではなかった。岡山市の後楽園にも、曲水の跡があった。金沢市の兼六園の池に入る流れも曲水、と説明された記憶がある。

現在も、京都の城南宮、福岡県の大宰府、岩手県平泉の毛越寺で曲水の宴が行われているという。歌を作る人が直接盃を取るのが曲水の宴のやり方と思っていたが、小諸の場合は寄り人が盃を運んだ。毛越寺の場合は、最初に船が池を渡って酒を運んでくるという。各地でやり方が工夫されているようだ。

（食物史研究家）

王朝絵巻、小諸で再現



小諸での曲水の宴も11回目を数える

信毎 8.28.

旧石器 数百キロの旅

野尻湖遺跡群出土の黒曜石

青森・神津島(東京)産も

東日本との交流を裏付け

上水内郡信濃町の野尻湖遺跡群から出土した県外産黒曜石で作った石器

上水内郡信濃町の野尻湖遺跡群から出土した後期旧石器時代（約三万五千―一万二千年前）の石器に使われている黒曜石の中に、青森県や秋田県などの遠隔地で産出したものがあることが二十七日、県埋蔵文化財センター（更埴市）の調査で分かった。長い年月にわたって数百㌔離れた複数の地域と交流が続いていたことが、旧石器時代の石器で裏付けられたのは初めて。県内に国内有数の産地があったのに遠方の広範囲から黒曜石が運び込まれていたことになり、同センターは当時の人々の生活や行動を明らかにするうえで、貴重な手掛かりになるとしている。

上信越道建設に伴い発掘した貫ノ木、日向林Bなど十遺跡から出土したすべての黒曜石一万二千点余を、静岡県の沼津工業高専の望月明彦・助教授が蛍光エックス線法で分析した。ストロンチウム、ジルコニウムなど黒曜石に含まれる元素の量などに着目し、産地を突き止めた。

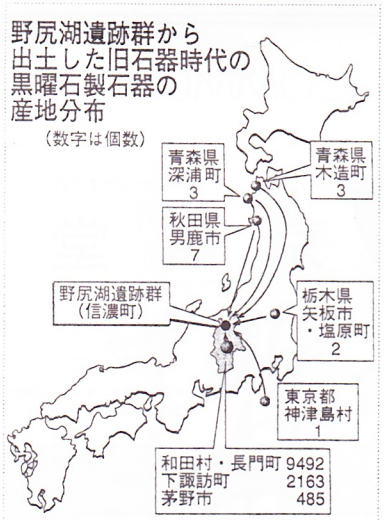
分析結果によると、黒曜石のほとんどは小県郡和田村や諏訪郡下諏訪町などの県内産だったが、十六点は県外産と分かった。遠くは青森県の木造町や深浦町、秋田県男鹿市が産地。このほか栃木県矢板市・塩原町付近の高原山、東京都の神津島産のものも含まれていた。信濃町からは直線距離でも二百八十―四百六十㌔離れた場所だ。

しかも、黒曜石が出た遺跡の年代が約三万年前から約一万二千年前と幅広いのが特徴。同じ産地から違う年代に運ばれたとみられる黒曜石もある。

これまで旧石器時代の黒曜石は、青森県深浦産の黒曜石が富山県の立美遺跡で出土した例などがある。しかし、いずれもサンプルが少なく、特定の時期、特定の産地に限られていた。

旧石器時代に詳しい明治大学の安蒜政雄教授は「青森産の黒曜石も含まれていたのは驚きだ。当時の野尻湖周辺は東北や関東から絶えずハンターが訪れる豊かな狩り場だったのだろう。すべての黒曜石を調べたことで、一つの遺跡群の歴史を探る手掛かりになる」と評価している。

同センターの大竹憲昭・調査研究員は「和田峠一帯から良質な黒曜石が採れるにもかかわらず、遠方のものが見つかっている。狩猟以外の社会的な要因が何かあったのではないか。この結果を基に、当時の人々の生活・行動パターンを明らかにしていきたい」と話している。



斜面

10.2. 信毎

今とは違って人の移動が限られた大昔でも、物の交流が思いのほか広く行われている。上水内郡信濃町の野尻湖周辺には、青森や秋田方面からも黒曜石が伝わってきていた。今から約三万五千―一万二千年前、後期旧石器時代のことだ◆上信越道の建設に伴い、野尻湖遺跡群から大量の黒曜石が出土している。県埋蔵文化財センターが、産地の分析を依頼したところ、大部分は和田峠などの県内産だった。数は少ないながらも県外産が見つかり、しかも遠くは直線距離で四百六十㌔に及んでいる。はるかな〝黒曜石の旅〟は何を語るのか◆野尻湖といえば、何はさておきナウマンゾウが思い浮かぶ。およそ二万年前ごろまでは生きていた。旧石器時代と年代が重なり合う。何度かの発掘を通じて野尻湖の湖底からは、ナウマンゾウの化石が見つかっている。ゾウやシカの狩り場だったとされる。だとすると黒曜石で作った狩猟具も、関係があったかと想像したくなる◆ぐっと時代は新しくなり、といっても約五千―四千五百年前だ。青森市の三内丸山遺跡からは、霧ケ峰産の黒曜石を使ったやじり三本が発掘された。縄文時代最大級の集落として一躍有名になったところである。旧石器時代とは逆に本州の中央から北の地へ、どうやら〝黒曜石の旅〟ルートがあったらしい◆獲物をたくさん手にするには、優れた狩猟具を必要とする。優れた狩猟具のためには、優れた石材がほしい。ガラスのように割れ口が鋭い黒曜石は、極めて好都合だったに違いない。旧石器時代から営々と大切にされてきた。いい物は、時間と場所を選ばない。

信州・信濃
挽きたて・打ちたて・茹でたて
小諸そば

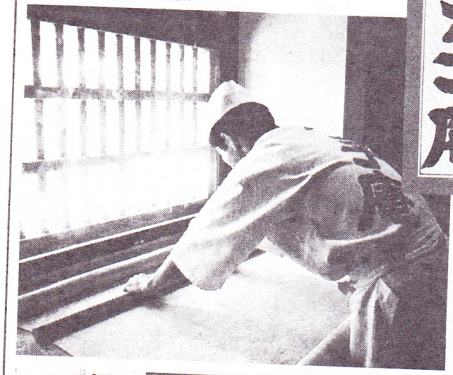
株式会社 三ツ和小諸そば事業部
本社　〒104 東京都中央区新川2丁目13番8号　☎03(3555)0092

健康を贈る
山吹味噌の特長―

天然、自然の条件を何よりも尊重し
味噌に最適な原料を選び
昔ながらのみそ造りの長所を守り
量産にこだわらず、自然の味のみを
追求しています。

味噌づくり300有余年――
山吹味噌
信州味噌株式会社
本社／〒161 東京都新宿区下落合3－17－38
TEL03－3951－1141(代)
工場／〒384 長野県小諸市荒町1－7－11
TEL0267－22－0007(代)

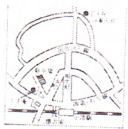
高峯高原で育った
本場の「手打そば」
長野県小諸市本町入口 〒384
☎0267(22)0820(大駐車場完備)



社長 依田昌平

城下町「小諸」・北国街道の蔵

土産とお泊りは

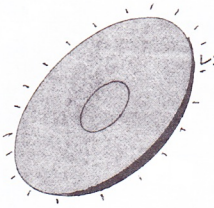


高峯高原の
自然につつまれた
丁子屋高峯山荘

土産に本物の味を

社長 依田太兵衛
●小諸市高峯56 〒384
☎0267(22)6120
FAX 3913

MUSIC IS COMMUNICATION



レコード・CD・レーザーディスク・ビデオソフト
京橋堂
会長 荻原堯春
専務 荻原富久子
代表取締役社長 荻原邦之
本社 中央区京橋2－5－17 京橋堂ビル
TEL3561－1451 FAX3561－6987

DOUTOR COFFEE SHOP
ヨーロッパタイプの小粋なコーヒーショップ
ドトールコーヒーショップ京橋駅前店
TEL (3564) 2570
代表取締役 荻原邦之

手打そば
松葵庵
産地――浅間高原霧下そば、小諸市丁子庵姉妹店
代表取締役 荻原秀彦
中央区京橋2－5－17 京橋堂ビル
電話 03 (3561) 0013

旅情の町、やすらぎとロマンにひたるリゾートホテル

信州名産品コーナー

展望大浴場とサウナ
小諸温泉
ブルースカイ
湯っくり、湯ったり、湯ートピア

小諸懐古園の隣

小諸グランドキャッスルホテル
小諸市古城1-1-5　☎0267(22)8000

小諸グランドキャッスルホテル姉妹店

本格派 信州そば処

宗家 内藤流石臼挽 手打そば本舗

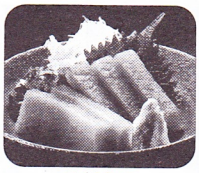
ふじや

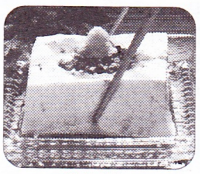
小諸市大手1-3-9　☎0267(22)2483

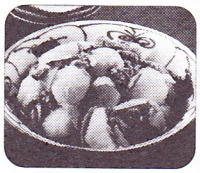
KIKKOman
食の、あたらしい風

原料大豆として良質の丸大豆を100%使用

キッコーマン特選丸大豆しょうゆ


お刺身に


冷や奴に


煮物に

まろやかな風味、深みのあるうまみ、やわらかな口あたり。
「つけ」「かけ」「煮物」に、丸大豆100%のおいしさをどうぞ。

佐久の地酒・山謙酒造の花シリーズ

吟醸酒　小諸すみれ
純米酒　姫ゆり
本醸造　すゞ蘭

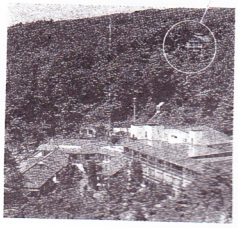
水は浅間の伏流水。
米は山田錦・美山錦を主原料に、酒造りの命である、麹造りはむろんのこと壜詰に至るまですべて伝統にのっとった手造りの地酒です。
郷里からの贈り物にぜひご活用ください。

銘醸蔵
山謙酒造店
長野県小諸市市町一一二一七
TEL/FAX 〇二六七-二二-〇〇一七

絶景とお風呂でシアワセ宴会
常盤館

登山電車でトコトコ登って
標高1,050mの眺望と爽快さ。
展望露天風呂
雲の助誕生

雲の助でくつろぐ
常盤橋太郎



菱野温泉
日観連会員 常盤館
小諸市菱野762-2
電話0267-22-0516

別亭懐石 花おか
本格的お茶事可(予約制)
専用電話 0267-22-1550

東京小諸会平成11年度総会・大懇親会御出席回答者名簿

平成11年11月13日（土）
如水会館にて
（敬称略・会員は五十音順）

来賓

経済評論家・財界研究所名誉会長	三鬼陽之助
参議院議員	小山峰男
参議院議員	羽田雄一郎
長野県議会議員	小林忠司
小諸市名誉市民・前小諸市長	塩川忠巳
小諸市長	小林俊弘
小諸市議会議長	池田勝衛
小諸市議会副議長	金井敏次
長野県人会連合会常務理事	我山　惇
東京滑川会会長	三上外喜男
〃　副会長	高木一雄
〃　副会長	石川　隆
東京上田会副会長	竹内芳郎
小諸市議会総務文教委員長	高橋要三
〃　総務文教副委員長	長谷川正昭
〃　福祉環境委員長	小山　厳
〃　建設副委員長	塩川　正
〃　経済委員長	小林保二
〃　経済副委員長	小山　達
〃　運営委員長	早川壽代
〃　運営副委員長	塩川重治
〃　議員	湯本正夫
〃　議員	赤尾忠男
〃　議員	武田良男
〃　議員	山本雄二
〃　議員	高橋嗣治
〃　議員	清水清利
〃　議員	土屋淳二
〃　議員	高木蘭子
〃　議員	福島鶴子
〃　議員	町田照美
小諸市農業委員会会長	白石昌人
小諸商工会議所副会頭	小山盛夫
小諸商工会議所専務理事	南澤哲夫
小諸市観光協会会長	内藤夏雄
小諸新聞社社長	高木智彦
ピアザ㈱代表取締役	木島和郎
小諸市助役	芹澤　勤
〃　収入役	小田中市雄
〃　教育長	上野英世
〃　総務部長	小山伸夫
〃　庶務課長	小林初生
〃　庶務課秘書係長	内堀和雄
〃　庶務課秘書係	甘利さとみ
〃　庶務課秘書係	高橋修一

会員

【あ】
相原明彦（新町）
相原千恵（新町）
饗場章雄（諸）
饗場孝子（諸）
甘利孝雄（平原）
甘利　孝（南町）
甘利富重（和田）
甘利美千代（和田）

【い】
伊沢まゆき（北大井）
市川源太郎（特）

【う】
臼田誠人（紺屋町）

【お】
小山田純一（北大井）
大池あさの（東町）
大村高芳（芝生田）
岡部幸美（南町）
荻原　隆（菱野）
萩原堯春（佐久市）
萩原冨久子（本町）

【か】
掛川国雄（馬場裏）
掛川好重（本町）
笠間　弘（馬場町）
柏木康男（南大井一ツ谷）
春日孝敬（南町）
片井光三（松井）
金井たき子（乗瀬）

【き】
木内古壽（南大井一ツ谷）
木俣宗子（柏木）
岸川貞男（石峠）
岸川初枝（石峠）
北村尚巳（石原町）

【こ】
小泉久夫（森山）
小泉好里（川辺）
小林八三（松井）
小林　博（芝生田）
小林　裕（小原）
小林芳彦（北大井八満）
小林正喜（芝生田）
小山清吾（与野町）
小山晴之助（市町）
小山堯志（市町）
小山八郎（与良町）
小山平六（与良町）
小山也恵子（東京都）
小山洋之介（市町）

【さ】
酒井福人（和田）

【し】
清水つね子（六供）
清水範男（南町）
清水博夫（耳取）
塩川卓二（乗瀬）
塩川政毅（乗瀬）
塩川正康（小原）
柴本吉枝（与良町）
白鳥和臣（西原）
白鳥伍朗（滝原）
白鳥ひさじ（新町）
白鳥正直（本町）

【す】
須江賢一（芝生田）
須田武久（大手）
須田正男（本町）
鈴木裕子（本町）
鈴木好友（南町）

【せ】
瀬川晶子（六供）

【た】
田中　勇（御影）
高橋宗雄（耳取）
高橋安夫（三岡村）
高橋安雄（三岡村）
高橋慶寿（耳取）
高山三千夫（御代田）
田島　譲（三岡村）
田沢雄二郎（荒町）
武重千冬（本町）
高平寿子（平原）

【つ】
土屋佳代子（荒町）
土屋憲太郎（六供）

【な】
中村美子（大字市村）

【に】
西岡寿美子（本町）
韮澤晴子（相生町）
韮澤弘志（相生町）
韮澤嘉雄（相生町）

【ぬ】
沼田　淳（与良町）

【は】
橋本　周（六供）
花上秀子（六供）

【ひ】
日野原愛子（本町）

【ふ】
深野かよ子（与良町）
藤田昭男（与良町）
舟田秋生（平原）
舟田恒夫（南大井）

【み】
三浦房子（佐久市）
三浦義彦（東京都）
宮山栄二（赤坂）

【も】
杜下袈裟太郎（南町）

【や】
柳澤今朝雄（滝原）
柳澤啓一（与良町）
柳澤　滋（与良町）
柳澤輝雄（大久保）
柳澤直樹（与良町）
柳澤紀子（市町）
柳澤弥幸（滝原）
山浦みつ子（与良町）
山田益英（糠地）
山浦俊一（北大井）

【わ】
渡辺義和（加増）

東京小諸会役員

（平成十一年十一月現在・五十音順）

顧問　井出正一
〃　池田勝衛
〃　小林忠司
〃　小林俊弘
〃　小山五郎
〃　小山峰男
〃　香坂　勝
〃　塩川忠巳
〃　白鳥映雪
〃　武重千冬
〃　羽田　孜
〃　羽田雄一郎
〃　掘込征雄
〃　湯本正夫
会長　韮澤嘉雄
副会長　饗場章雄
〃　市川源太郎
〃　小山田純一
〃　荻原冨久子
〃　小山庫荷供
〃　小山清吾
〃　小山洋之介
常務理事　小林　博
〃（会計）　高橋昭平
理事　相場勝彦
〃　甘利　孝
〃　大池あさの
〃　岡部幸美
〃　木内丈司
〃（会計）　北村尚巳
〃　銀川栄治
〃　小山厚三郎
〃　小山陽太郎
〃　清水博夫
〃　塩川信俊
〃　白鳥ひさじ
〃　須田武久
〃　鈴木裕子
〃　中村美子
〃　宮山栄二
〃　柳澤紀子
〃　渡邉義和
監事　土屋佳代子
〃　吉澤正人